

048

学生による「木の仮設住宅」実装化プロジェクト

取組主体

独立行政法人国立高等専門学校機構 阿南工業高等専門学校

従業員数

137人

想定災害

全般

実施地域

徳島県

- 県や地元建設業者と連携し、災害時に必要となる木造仮設住宅を学生が実際に建設する授業を実施。災害時に地域で実践的に活躍できる技術者を育成している。

1 取組の特徴（はじめたきっかけ、狙い、効果、工夫した点、苦労した点）

木造仮設住宅の建設を通して、災害時に活躍できる技術者を育成

- 機械や電気、情報、建設等の専門性を持った技術者を輩出する徳島県の阿南工業高等専門学校では、学生による「木の仮設住宅」の建設授業を実施している。大規模災害により住宅を失った際、温かみのある「木造」の仮設住宅は、被災者の生活再建の基盤となるだけでなく、地域の林業や建設業等の雇用等の回復にも寄与するとされている。
- 東日本大震災を機に故郷である徳島県の減災を志して帰郷し、住宅の耐震化や応急仮設住宅の整備計画等に携わってきた建築士が、令和元年に同校の教員に着任した。同教員は、建築士として活動する中で、県内の建設会社が発災時に木造仮設住宅を整備できる十分な体制を構築できていないことに課題を感じていた。
- 同教員の応急仮設住宅の整備に関わる県や県内建設業者とのつながりを活かし、学生による「木の仮設住宅」の建設授業が実現した。建設には、県が地元建設会社の木造仮設住宅建設の訓練を行った際に使用した木材を利用し、工具は徳島県木の家地域協議会より寄贈されたものを利用している。
- 応急仮設住宅の施工、設計等について数コマの授業を全学年に設け、毎年度反復的に知識や技術を積み重ねることで、確実な技術力を身に付けられるよう工夫している。木造仮設住宅を建築することで、学生は特殊な工法を用いる応急仮設住宅の実際の施工を体験するとともに、被災者に思いを巡らせながら、これから来る災害に備え、より実践的な学習をしていくモチベーションを高めている。



阿南工業高等専門学校の学生たち



木造仮設住宅の建設の様子

2 取組の平時における利活用の状況や防災・減災以外の効果

- 学校教育の中で応急仮設住宅の設計や施工、実際の整備に係る職人や費用の手配等の総合的な学習を行うことで、災害時に実践的に活躍できる技術者を育成している。
- 一般に建築関係者のみが木造仮設住宅に取り組んでも社会的な関心を高めることが難しいが、学生が学び、実際に建設することで、多くのメディアに取り上げられ、事前防災等への社会的な認知を広げることにつながっている。

担当者の声

- 地域の防災を担う技術者を教育機関として責任を持って育成するとともに、地域に役立つ研究開発等を行いたいと思います。是非、一緒に学生を育てる仲間になり、教育を通じて防災準備をしていきませんか。お気軽にお声がけください。

問合せ先

独立行政法人国立高等専門学校機構 阿南工業高等専門学校
TEL : 0884-23-7100 FAX : 0884-22-5424 E-Mail : soumukoho@anan-nct.ac.jp

サイト URL

